**おおさかＱネット「防犯アプリ」に関するアンケート　分析結果概要**

■実施期間　令和元年７月８日（月）～７月９日（火）

■サンプル数　大阪府に居住する18～29歳600サンプル、30代、40代、50代及び60歳以上各100サンプル　計1,000サンプル（各年代男女比１：１）



|  |
| --- |
| **１.　調査目的**　大阪府警察本部では、府民の自主防犯意識向上のため、大阪府警察安まちメール等により情報提供を行っているが、メール登録者数の約７割が30～40代であり、10～20代の登録者数は１割に満たない状況である。一方、10～20代を狙った強制わいせつ等の犯罪が依然として高水準で発生していることから、同年代が身近に感じるスマートフォンのアプリを活用した効果的な取組みを検討することを目的に本調査を実施する。**２.　主な調査（検証）項目**仮説１：10～20代の若者も、他の年代と変わらず、犯罪に対する不安は感じている。仮説２：若年層・中間層は、高齢層に比べ、スマートフォンで情報を入手する人の割合が高い。仮説３：スマートフォンの中でもメールマガジンでの情報入手はあまりない。 |

|  |
| --- |
| **３.　主な調査（検証）結果**仮説１： 18～29歳の方が、50代及び60歳以上に比べ、自分自身が犯罪被害にあうのではないかと不安を感じる人の割合は高く、30代及び40代とは統計的な有意差はなかった。また、家族等の同居人が犯罪被害にあうのではないかと不安を感じる人の割合は、18～29歳の方が60歳以上に比べ高く、30代、40代及び50代とは統計的な有意差はなかった。仮説２：年齢層が下がるにつれ、スマートフォンで情報を入手する人の割合が高かった。仮説３：情報を入手するスマートフォンの機能は、「インターネットニュースサイト（78.3％）」が最も多く、次いで「LINE（ライン）（50.9％）」、「ニュースアプリ（40.1％）」、「Twitter（ツイッター）（26.5％）」であり、「メール（メールマガジン受信）」は11.2％であった。 |

（注）

１.　「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

２.　割合を百分率で表示する場合は、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

３.　図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

４.　図表中の上段の数値は人数（n）、下段の数値は割合（％）を示す。

５.　図表下にカイ２乗検定の値（p値）を記載しているものは、信頼度５％水準で統計上の有意差がみられたもの。原則は自由度１での検定となるが、自由度２以上でも有意差がみられたものについては、p値とあわせて自由度を記載している。

６.　複数回答のクロス集計については、カイ２乗検定を行っていない。

**１．犯罪に対する不安について**

犯罪に対する不安について、年代等で違いがあるか検証した。

**1-1　年代と自分自身の犯罪被害に対する不安との関係性**

　年代によって、自分自身の犯罪被害に対する不安に差があるかを分析する。

・自分自身が犯罪に遭うかもしれないと不安を感じることがあるか、という質問に対して、「よく不安を感じることがある」、「たまに不安を感じることがある」を選択した人を【不安を感じる（自分自身）】とし、「ほとんど不安を感じない」、「まったく不安を感じない」を選択した人を【不安を感じない（自分自身）】とした。

* 18～29歳及び30代の方が、50代及び60歳以上に比べ、【不安を感じる（自分自身）】の割合は高かった。（図表1-1）

**【図表1-1】**





**1-2　年代と同居人の犯罪被害に対する不安との関係性**

　年代によって、同居人（家族等）の犯罪被害に対する不安に差があるかを分析する。

・同居している方が犯罪に遭うかもしれないと不安を感じることがあるか、という質問に対して、「よく不安を感じることがある」、「たまに不安を感じることがある」を選択した人を【不安を感じる（同居人）】とし、「ほとんど不安を感じない」、「まったく不安を感じない」を選択した人を【不安を感じない（同居人）】とした。なお、「わからない」は除いた。

* 18～29歳及び50代の方が、60歳以上に比べ、【不安を感じる（同居人）】の割合が高かった。なお、30代及び40代の方が、50代及び60歳以上に比べ、【不安を感じる（同居人）】の割合が高かった。（図表1-2）

**【図表1-2】**





**1-3　（参考）性別と自分自身の犯罪被害に対する不安との関係性**

　性別によって、自分自身の犯罪被害に対する不安に差があるかを分析する。

* 女性の方が、男性に比べ、【不安を感じる（自分自身）】の割合が高かった。（図表1-3）

**【図表1-3】**





**1-4　（参考）子どもの有無と同居人の犯罪被害に対する不安との関係性**

　子どもの有無によって、同居人（家族等）の犯罪被害に対する不安に差があるかを分析する。

・現在、誰と一緒に暮らしているか、という質問に対して、「中学生以下の子ども・孫」を選択した人を【子どもがいる】とし、選択しなかった人を【子どもはいない】とした。

* 【子どもがいる】方が、【子どもはいない】に比べ、【不安を感じる（同居人）】の割合が高かった。（図表1-4）

**【図表1-4】**





**２．情報を入手する手段について**

時事ニュース等の情報を入手する手段について、年齢層で違いがあるか検証した。

**2-1　（参考）情報入手手段について（年齢層別）**

　時事ニュース等の情報を入手する手段について、年齢層別の調査結果を記載する。

・年齢層について、18歳以上39歳以下を【若年層】、40歳以上59歳以下を【中間層】、60歳以上を【高齢層】とした。

* 時事ニュース等の情報を入手する手段について、【若年層】で最も多いものは、「スマートフォン（83.3％）」、次いで「テレビ（79.9％）」、「パソコン・タブレット端末（30.3％）」と続いた。【中間層】で最も多いものは、「テレビ（83.0％）」、次いで「スマートフォン（68.5％）」、「パソコン・タブレット端末（49.0％）」と続いた。【高齢層】で最も多いものは、「テレビ（91.0％）」、次いで「パソコン・タブレット端末（56.0％）」、「新聞・雑誌（55.0％）」と続いた。（図表2-1）

**【図表2-1】**





**2-2　情報入手手段としてのスマートフォン利用と年齢層との関係**

　年齢層によって、情報入手手段としてスマートフォンを利用している人の割合に違いがあるかを分析する。

・普段、時事ニュース等の情報を入手する手段について、「スマートフォン」を選択した人を【スマートフォンを利用する】とし、「スマートフォン」を選択しなかった人を【スマートフォンを利用しない】とした。

* 年齢層が下がるにしたがって、【スマートフォンを利用する】人の割合は高くなった。

（図表2-2）

**【図表2-2】**





**３．情報を入手する手段について**

　情報入手のために利用しているスマートフォンのサービスについて、調査結果を記載する。

**3-1　情報入手のために利用しているスマートフォンのサービス**

・年代によってサンプル数に差があるため、各年代・男女が均等となるよう、ウエイトバック集計を行った。

* 情報入手のために利用しているスマートフォンのサービスで最も多いものは、「インターネットニュースサイト（78.3％）」、次いで「LINE（50.9％）」、「ニュースアプリ（40.1％）」と続いた。「メール（メールマガジン受信）」は11.2％であった。（図表3-1）

**【図表3-1】**



**3-2　（参考）情報入手のために利用しているスマートフォンのサービス（年齢層別）**

　情報入手のために利用しているスマートフォンのサービスについて、年齢層別の調査結果を記載する。

* 情報入手のために利用しているスマートフォンのサービスは、すべての年齢層で「インターネットニュースサイト（若年層　67.1％、中間層　82.5％、高齢層　89.8％）」が最も多かった。

次いで、【若年層】【中間層】は「LINE（若年層　63.0％、中間層　48.9％）」、【高齢層】は「ニュースアプリ（28.6％）」であった。

３番目は、【若年層】は「Twitter（47.0％）」、【中間層】は「ニュースアプリ（45.3％）」、【高齢層】は「LINE（24.5％）」であった。（図表3-2）

**【図表3-2】**





**４．【参考】防犯のためのアプリの機能について**

犯罪情報収集や防犯のためのスマートフォンアプリで使ってみたい機能について、調査結果を記載する。

**4-1　防犯アプリの機能の利用意向（性別）**

* 犯罪情報収集や防犯のためのスマートフォンアプリで使ってみたい機能について、男性で最も多いものは、「GPSと連携し、地図上に犯罪情報を表示（40.6％）」、次いで「ワンタップで110番通報（46.7％）」、「最寄りの警察署・交番・駐在所へのルート案内（26.6％）」と続いた。女性で最も多いものは、「ワンタップで110番通報（54.4％）」、次いで「防犯ブザー（38.8％）」、「防犯ブザーの起動と同時に、事前に登録したアドレスに位置情報付きのメール送信（36.2％）」と続いた。（図表4-1）

**【図表4-1】**





**4-2　防犯アプリの機能の利用意向（年代別）**

* 犯罪情報収集や防犯のためのスマートフォンアプリで使ってみたい機能について、すべての年代で「ワンタップで110番通報（18～29歳 48.7％、30代 49.0％、40代 40.0％、50代 42.0％、60歳以上 44.0％）」が最も多かった。

次いで、全ての年代で「GPSと連携し、地図上に犯罪情報を表示（18～29歳 41.2％、30代 43.0％、40代 33.0％、50代 32.0％、60歳以上 24.0％）」であった。

なお、40代は同率で「防犯ブザー（33.0％）」、「防犯ブザーの起動と同時に、事前に登録したメールアドレスに位置情報付きのメール送信（33.0％）」が挙げられた。

３番目は、18～29歳、50代及び60歳以上は「最寄りの警察署・交番・駐在所へのルート案内（18～29歳 32.5％、50代 23.0％、60歳以上 20.0％）」であり、60歳以上は同率で「防犯ブザー（20.0％）」が挙げられた。30代は「防犯ブザー（41.0％）」、40代は「設定エリア内のリアルタイムな犯罪情報のプッシュ通知（22.0％）」であった。

（図表4-2）

**【図表4-2】**



